

やさしいことばの大切さ

今津小学校 二年

津田 優花

(敬称略)

「もう友だちやめる。」

「いいよ。」

これは、ケンカをしていたときのことばだ。

わたしは、じょうだんだと思って、つい言ってしまった。ほんとうに友だちをやめたいわけじゃないのに、かるい気持ちで、

「いいよ。」

と言ってしまった。なきそうな顔で友だちは言った。

「いやだ。」

わたしは、ちよつとびっくりした。ケンカをして友だちをやめることにいいよと言ったのに、その友だちからのへんじは、

「いやだ。」

だった。わたしは、とてもうれしくて心がぼかぼかとあたたくなくなった。そして、この友だちを大切にしたいなあと思った。じょうだんで言ったわたしのことばは、友だちをかなしい気持ちにさせたかもしれないけれど、友だちのことばは、わたしをうれしい気持ちにさせてくれた。ことばは、とっても大切なんだなあと思った。

友だちのかなしい顔を見たら、わたしもかなしくなる。友だちがわらったら、わたしもうれしくなる。友だちのえがおを見るのは、わたしは大好きだ。

なにげなく言ったことばで、あいてがいやな気持ちになったり、かなしくなったりする、ちくちくことばにもなる。でも、ほんたいにやさしいことばは、人の心をあたたくしたり、うれしくしたりする、ふわふわことばになる。

これからは、じょうだんでもあいてがきずついたり、いやな気持ちになったりするちくちくことばを言わないようにして、やさしいふわふわことばをたくさんつかいたい。